

令和 4 年度 事業 報告

1 普及啓発事業

(1) 賛助会員

がん征圧運動に協力していただく賛助会員(維持会員)の拡大に努めた。

(令和5年3月31日現在 : 個人会員 225 人、法人会員 97 団体)

(2) がん征圧月間運動

日本対がん協会と日本医師会は 9 月を「がん征圧月間」としており、また、北海道は 9・10 月を「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」としている。当協会は両者と協力し、9・10 月を重点的にがん征圧運動を行っている。具体的な取組としては、

ア 「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」行事として、北海道庁ロビーにおいて「がん予防普及パネル展」を開催した。

イ がん検診事業の拡大をはかるため、地域団体と協力してPRを行った。

ウ 広報資料・がん関係資料を報道関係者に積極的に提供し、新聞・テレビ・ラジオ等メディアを通じてがん征圧月間のPRを行った。

エ 北海道医師会と連携し、がん予防ポスターを道内の医療機関及び市町村へ配付した。

また、北海道、札幌市、旭川市、釧路市の協力を得て、がん検診受診促進のための懸垂幕・看板を掲示し、PRを行った。

(3) がん予防道民大会

がんに関する正しい知識を広く道民に普及することにより、がん予防活動の実践とがん検診事業の進展を図ることを目的として、昭和 40 年以来、がん征圧月間の中心行事として全道で開催している。

令和4年度は北海道・新ひだか町・北海道健康づくり財団と共催し、多くの関係団体の協賛・後援のもと 10 月 21 日(金)に日高管内では初めて新ひだか町公民館において次のとおり開催した。

本大会は、初の試みとして会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催し、全道から約 470 名が参加した。また、健康教育の一環として地元高校生が参加したほか、道内の高校などに「特別講演」と「健康講話」を 유튜브 配信を行った。

大会の主な行事

○ がん予防功労者表彰 (北海道対がん協会長表彰)

せたな町、当麻町、国際ソロプチミスト静内

○ 優良がん対策推進企業表彰 (北海道知事表彰)

丸彦渡辺建設株式会社

○ 特別講演

「がんはなぜがんになるのか？」～がんにならないように、なっても困らないように～

北海道医療大学 先端研究推進センター センター長・特任教授 小林 正伸 氏

○ 健康講話

「9人にひとりが私でした…」 ～患者取材していた私が乳がん～

HTB 北海道テレビ放送株式会社 東京支社

編成業務部長・SODANE 編集長 阿久津 友紀 氏

(4) 啓発セミナー

ア がん予防学級

一般市民を対象に、がんに関する正しい知識の普及を図るため、旭川センターで開講し、45 人が受講した。

イ 北海道家族の健康をまもる講習会

北海道健康をまもる地域団体連合会、北海道食生活改善推進員協議会、北海道結核予防会と共催し、令和 4 年 6 月 10 日に札幌エルプラザにおいて、全道から参加した43名の受講者にがん・結核等に関する講習会を開催した。

ウ 講習会等

地域住民や保健推進員などを対象に、4 回、241 名へ講演・講習会等を行った。

(5) 事業年報

事業年報については昭和 45 年から毎年発刊しており、令和 2 年度実績を収録した「2020 事業年報」を発行した。

(6) その他情報発信

ア 機関誌「しらかば」の発刊

北海道対がん協会の機関誌である「しらかば」を発刊した。

イ ホームページの活用

ホームページにより、随時、最新の協会の運営及び各種事業の情報並びにがんに関する正しい知識の周知・普及に努めた。

ウ メディアの活用

全道版の雑誌及び地域FMラジオなど、各種メディアを通じて、がん検診の周知・普及に努めた。

(7) 普及啓発の推進

ア 地区組織との連携

がんに関する正しい知識の普及、及びがん検診事業の拡大を図るため、各種団体・地区組織と連携を行った。

イ 企業との連携

ピンクリボン運動等、がん征圧の趣旨に賛同する企業と連携し、検診無料クーポン券プレゼント等を企画する等、がんの知識の普及と検診の拡大を図った。また、事業所等の職員向けの健康教育にも積極的に講師を派遣した。

ウ ボランティア団体への支援

ピンクリボン運動等の啓発活動に取り組んでいる市民団体を支援し、その団体の協力のもと検診の拡大を図った。

エ パンフレット、リーフレット、ポスター等

パンフレット、リーフレット、ポスター等を作成配布し、がんに関する正しい知識の普及及びがん検診事業の拡大を図った。

(8) 各種がん・生活習慣病対策会議

がん及び生活習慣病検(健)診事業を拡大し受診率の向上を図るため、次のとおり会議を開催した。

ア がん及び生活習慣病対策推進会議

次年度の事業計画を円滑に推進するため、北海道と共催で、保健所・市町村・事業所・関係者を対象に「がん及び生活習慣病対策推進会議」を次のとおり会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催した。

○ 日時、場所

令和4年9月12日(月) 13:00～16:00 ホテルポールスター札幌

令和4年9月16日(金) 13:15～16:20 旭川大雪クリスタルホール

○ 開催方法

Web 併用ハイブリッド方式

○ 報告事項

① 北海道からの報告

・北海道におけるがんと生活習慣病の状況について

② 北海道対がん協会からの報告

・令和5年度 検(健)診の実施計画について

・がん検診の精度管理について

○ 講演

札幌会場:「胃がん死撲滅に向けて」

公益財団法人北海道対がん協会 会長 加藤 元嗣

旭川会場:「産婦人科の観点から予防医療を考える」

旭川医科大学産婦人科学講座 教授 加藤 育民 氏

イ 日本対がん協会 東北・北海道ブロック会議

東北6県支部が集い、事業状況等の情報交換を行っているが、令和4年度は次のとおりオンライン開催した。(開催当番:北海道支部)

○ 開催日程

令和4年11月11日(金)13:30～15:00

○ 開催方法

オンラインによる(Zoom)

(9) 受診率の向上

ア 新型コロナウイルス感染症の影響による未受診者対策

新型コロナウイルス感染症の影響により検(健)診を延期した市町村に対し当協会の感染防止対策をPRし、検(健)診日程の再検討と追加検(健)診を提案するとともに、未受診者に対し受診勧奨を行った。

イ 未受診者への検診勧奨

チラシ約 126 万枚、ハガキ2万 7 千枚を作成、市町村へ提供し、未受診者への働きかけを行った。

ウ 受診勧奨事業者との業務提携

① SocioFuture(ソシオフューチャー)株式会社との業務提携

江別市内にコールセンターを設け、市町村検(健)診の予約受付業務を代行する(株)SocioFuture(本社:東京)と業務提携を行い、新たな市町村からの検(健)診受託及び検(健)診受診率向上に向けた検討を行った。

② 株式会社キャンサースキャンとの業務提携

市町村毎に検診未受診者の傾向等についてデータ分析し、個々に有効な文書等を発送する業務により、他都府県市町村の受診率向上対策に実績のある、(株)キャンサースキャン(本社:東京)と業務提携を行い、受託市町村の受診率向上及び新規受託に向けての検討を行った。

エ 日曜検診の実施

3検診センターで平日受診できない人などを対象に、がん検診と各種検(健)診を17日間実施し、延べ2,440人が受診した。

(10) センター検(健)診の充実

ア センター利用のPR

札幌市・旭川市・釧路市内の町内会へ積極的に検(健)診をPRし、センター利用の受診拡大を図った。

イ 検診の充実

胃X線検査でのピロリ胃炎の診断を行ない、ピロリ感染者に胃内視鏡検査を実施し、ピロリ除菌へ誘導を行った。

ウ 人間ドックの受診拡大

標準コースにCT等を追加した、プレミアムコースを積極的にPRし、受診勧奨を行った。

エ 予防医療の拡大

札幌がん検診センターでは、積極的に胃がんの予防につながるようピロリ菌専門外来を開設するとともに、大腸がんの予防、生活習慣病による死亡率を減少させるため、便秘外来を開設した。

また、大腸がん予防として、大腸ポリープに対して、コールドポリペクトミーを札幌においても開始した。

(11) 検(健)診設備(機器)の充実

ア 胃肺併用検診車

北海道の補助により、胃肺併用検診車(2台)を購入し、巡回検診事業の強化を行った。

イ 内視鏡システム

札幌がん検診センターに内視鏡システム(2式)を整備し、内視鏡検査等の受診枠を拡大した。

ウ 施設内読影サーバー

北海道の補助により、施設内読影サーバーを更新し整備した。

エ 腹部超音波診断装置

札幌がん検診センター、旭川がん検診センターに腹部超音波診断装置を整備した。

(12) その他

ア 北海道がん対策基金の事務局運営

当協会は事務局として基金の管理・運営を行っている。令和4年度末の寄附累計額は41,964,694円であった。また、道内でがんに関する活動を行う8団体へ2,410,000円を助成した。

イ がん電話相談事業

相談員を置き「がん電話相談」事業を実施しているが、令和4年度の相談件数は、37件(札幌市内33件、他市町村4件)であった。これを性別でみると、男性7人、女性30人、部位別では、乳、肺、肝、大腸、胃がんの順であった。

ウ 禁煙運動への参加

北海道禁煙週間実行委員会に参加して、WHOが提唱する世界禁煙デーを中心とする事業に参加協力した。

エ 札幌市がん対策普及啓発キャンペーン実行委員会

当会が事務局を担うとともに、実行委員としても参画し、札幌市等とともに事業を実施した。

2 調査研究事業

(1) 学会研修

職員の資質の向上をはかるため、学会・研修会に参加する他、日本臨床細胞学会・日本婦人科がん検診学会等、延べ9人が発表した。

(2) 厚生労働省「がん対策のための戦略研究事業」

「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験」の研究団体として参加。

(3) 「北海道広域でのHPV自己採取に関する研究」

(株)ジェネティクラボを共同研究者として、自己採取法によるHPV-DNA検査の有効性の検証を行った。

- (4) 「間質性肺炎を検出する AI ソフトウェアによる健診読影試験」
札幌医科大学医学部 呼吸器・アレルギー内科学講座が行う研究に協力した。
- (5) 「ヒト胃に感染するピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の実態調査」
杏林大学医学部を共同研究者として、ヒト胃に感染するピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の感染率、関連疾患、内視鏡像の解明を行う。
- (6) 「上部消化管内視鏡検査対象者から得られた胃壁拭い液検体に対するヘリコバクターピロリ抗原キットの診断法適用に関する観察研究」
浜松医科大学医学部を共同研究者として、ヘリコバクターピロリ抗原キットの胃壁拭い液検体中のヘリコバクターピロリ抗原の検出がヘリコバクターピロリ感染症診断の補助としての有効性を検証する。
- (7) 「液体生検による消化器がん検診分子マーカーの探索」
旭川医科大学を共同研究者として、液体生検による新たな消化器疾患の検診法確立と分子生物学的マーカーの消化器疾患に有用であることを証明する。
- (8) 「全大腸内視鏡検査前処置における「クエン酸マグネシウム等張液」の当日法と分割法の受容性及び効果についての検討」
淳風会倉敷クリニックを共同研究者として大腸内視鏡検査の前処置において、腸管洗浄液の最適使用法を検討する。

3 会議開催状況

(1) 理事会

- 第1回理事会 令和4年6月8日(水) 参集(Web 併用)開催
第2回理事会 令和4年6月29日(水) 書面開催
第3回理事会 令和4年9月30日(金) 書面開催
第4回理事会 令和5年3月24日(金) 参集(Web 併用)開催

(2) 評議員会

- 第1回評議員会 令和4年6月29日(水) 参集(Web 併用)開催
第2回評議員会 令和4年9月26日(月) 書面開催
第3回評議員会 令和5年2月27日(月) 書面開催

(3) 四役会

- 第1回四役会 令和4年5月26日(木) 参集(Web 併用)開催
第2回四役会 令和4年8月24日(水)
第3回四役会 令和5年3月1日(水)